

## 液状検体細胞診(Liquid-based cytology : LBC 法)検体を用いた膀胱癌での $\gamma$ -glutamylcyclotransferase(GGCT) の発現に関する検討

### 研究実施のお知らせ

#### 1. 研究の対象となる方

2025 年 4 月以降に山梨大学医学部附属病院で膀胱癌に対する細胞診検査を受けた方

#### 2. 研究期間

研究機関の長の許可日 ～ 2028 年 3 月 31 日

#### 3. 試料・情報の利用及び提供を開始する予定日

利用開始予定日：研究機関の長の許可日

#### 4. 研究の目的

尿を用いた細胞診検査に用いる LBC 法検体で、癌のマーカーとして期待される GGCT 発現の有無を確認し、細胞診で膀胱癌(Class V)と診断する際の一助となるか検討する。

**LBC 法とは：**患者様から採取した細胞を一度液体（固定・保存液）中に浮遊させ、均一化した状態からスライドガラスに塗抹する方法です。

**GGCT とは：**グルタチオン（酸化ストレスから細胞を保護する作用をもつ物質）の産生に関わる重要酵素のひとつであり、過去の研究でがん細胞の増殖を促進する働きがあることも明らかされています。

#### 5. 研究の方法

GGCT に着目し、膀胱癌細胞における、それらの物質の産生・発現の有無を、免疫染色および RT-PCR 法という手法で解析します。

#### 6. 研究に用いる試料・情報の項目

情報：診療録情報(年齢、性別、部位、腫瘍の大きさ)、検査データ

試料：当院で保管されている細胞診用検体の残余検体、同一症例の組織診用検体の残余検体。

なお、この研究に必要な臨床情報は、すべて診療録より取り出しますので、改めて患者さんに行っていただくことはありません。

#### 7. 外部への試料・情報の提供

該当なし。

## 8. 研究組織

【研究責任者】

山梨大学医学部附属病院病理部 望月 邦夫

## 9. 試料・情報の管理について責任を有する者

山梨大学

## 10. 個人情報の取扱いについて

研究者等は、研究対象者の個人情報保護について、適用される法令、条例を遵守します。また、研究対象者の個人情報およびプライバシー保護に最大限の努力を払い、本研究を行う上で知り得た個人情報を漏らすことはありません。

## 11. 利益相反について

外部との経済的な利益関係等によって、公的研究で必要とされる公正かつ適正な判断が損なわれる、又は損なわれるのではないかと第三者から懸念が表明されかねない事態を「利益相反」と言います。本研究は、人体病理学講座の研究費を用いて実施します。この研究に関して開示すべき利益相反関係はありません。

## 12. お問い合わせ等について

本研究に関してご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望により、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書や関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また、本研究に試料・情報が用いられることについてご了承いただけない場合は研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも不利益が生じることはありません。

<照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先>

山梨大学医学部附属病院病理部

准教授 望月 邦夫

メールアドレス：kuniom@yamanashi.ac.jp

FAX：055-273-9534